

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470200740
法人名	医療法人 ゆりの会
事業所名	グループホーム ゆり苑
訪問調査日	平成 21年 3月 11日
評価確定日	平成 21年 3月 30日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470200740		
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホーム ゆり苑		
所在地	横浜市神奈川区六角橋 1-4-3 (電話)045-439-7788		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成21年 2月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 6.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	領収書により精算 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(195,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.2 歳	最低	59 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齊田医院、矢吹歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇ 事業所は、東急東横線の白楽駅から徒歩2分の商店街にあるため、家族が訪問するのに、また、利用者と家族が、散歩やショッピングするのに便利な地区に立地している。
 ◇ 「医療法人 ゆりの会」の傘下であり、同一グループの齊田医院が隣接しており、院長が定期的に来診して利用者の健康維持と治療にあたっている。また、緊急時は24時間即対応してくれる体制が、利用者、及び家族には大きな安心感を与えている。
 ◇ 職員は管理者を中心にして利用者が経験と知識を最大限活かして、自由に自分の好きな暮らしができるよう支援することに徹している。利用者はゆったりと伸びやかに暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回の課題であった運営推進会議の開催を推進中であり、包括支援センターの職員、民生委員、自治会長等地域の協力体制が整い3月に実施する予定である。 ・利用者の自立を効果的に支援するため、必要以上に手をかけず、待つ介護、見守る介護に徹し、利用者とのコミュニケーションと観察に重点を置く介護に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・自己評価表を職員に配布し、職員との面談で管理者が意見を聞き取りまとめた。 ・自己評価表の作成過程で、職員との意見交換で気づきがあり、また外部評価の結果を受けて、改めて全員で課題を検討し業務に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・地域包括支援センターの職員、民生委員、自治会長等地域の協力を得て体制を整備中であり、この3月に営推進会議の実施を予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・利用者には近隣の出身者が多く、事業所が商店街の中心にあるため、家族がショッピングを兼ねて訪れることもあり、苦情や相談事を気軽に話せる人間関係ができています。 ・家族から出された意見や苦情は、連絡簿で職員に伝えると共に、職員会議で検討し
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・商店街を生活の場であった利用者も多く、地域との交流が日常的に行なわれている。 ・事業所が、地域の介護や高齢者問題など、福祉に関する相談の拠点的存在になっている。 ・近くの保育園と連携しており、園児が来所して利用者と一緒に楽しい時間を過ごしている。また、利用者は商店街や自治会の行事に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念として掲げている「自由」、「自立支援」、「自己決定」を記したカードを作成し、職員が常時携帯している。 ・理念には言葉として記載されていないが、地元の出身者が多く、地域との繋がりを大切に支援している。	○	・今後機会をみて職員と共に検討し、理念に「地域の中で暮らし続けることを支援して行く」旨、明記されることが期待されます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者が日常のケアをとおして、職員に理念の実践と職員間での共有に努めている。 ・朝、夕の申し送りのミーティングで話し合い、連絡簿を活用し、事例に即して理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所は、地域の介護、医療、高齢者問題など福祉に関する相談の拠点的存在になっている。 ・近くの保育園との連携で園児が来て一緒に楽しい時間を過ごしている。利用者は商店街・自治会の行事に自由に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が、自己評価表を職員に配布して内容を検討して貰い、職員との面談で意見を聞いて取りまとめた。 ・職員との意見交換の場で、また外部評価の結果を基に全員で内容を検討して、業務の改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・前は、運営推進会議の体制作りの段階だったが、包括支援センターの職員、民生委員、自治会長等地域の協力体制が整い、この3月に実施を予定している。	○	・運営委員会の場を積極的に活用して、地域との連携がよりいっそう密になることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域の方から福祉の相談が多く寄せられて、ケアマネジャーを紹介するなど、福祉に関する地域の拠点としての役割を担っている。行政との話し合いや区の内部調査の機会を捉えて、その旨説明している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月の発生費用は原則とし家族の来所時にの精算し、その機会を利用して利用者の状況を報告したり、意見を聞いている。 ・地元からの入居者が多く報告・要望を聴く機会が多い。 ・来所の難しい家族には週に1～2回電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来所時に要望を把握し、個人別の記録用紙に記載して、日常の支援に生かしている。 ・意思表示のできる利用者が多いため、本人の意思を重視したケアに徹している。なお、意思表示の困難な利用者には、日々のケアの際の反応から把握している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ユニット間は相互に交流し、いずれの職員も利用者と同様に馴染みになっており、職員の異動時にも即対応できるように努めている。 ・過去一年は、利用者、職員共に異動はなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・日常の業務を通して、職員が利用者から「尊敬される人」、「好かれる人」になるように指導している。 ・グループホーム間では、相互に職員の実習を受け入れているが、当事業所からは外部に出す余裕がない。 ・各人の自主研修を奨励している。	○	・職員が外部研修を受講できるよう、引き続きゆりのある人材の確保への努力が期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム間で、相互に実習生の受け入れを計画するなど、同業者間の交流に参加している。 ・職員は、当ホームに派遣された実習生と交流し、サービス改善の気づきを得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に本人、家族に事業所を見学してもらい、本人が納得するまで見学を繰り返して、本人が事業所の環境に馴染んでから入所してもらっている。 ・本人の気持ちを重視し、ゆっくり事業所の雰囲気に慣れるのを待つ姿勢で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人が「やって欲しいこと」、「欲しくないこと」を本人の言葉として個人用の記録用紙に記載し、日々それを見ながら利用者本位の対応ができる体制にしている。 ・待つ姿勢に徹しているため利用者と一緒に時間が長く、利用者の経験・知識から教わることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者本人との徹底した話し合いを基本にしている。 ・利用者本位の対応ができるよう、利用者の経験や趣味を把握して、日常生活で活かせるように努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・意思疎通のできる利用者が多いことから、利用者との会話の中から思いや意向をくみとっている。意思疎通が難しい人には日常の会話や反応から本人の意思を把握している。 ・介護計画は、利用者の思いと家族の希望に沿って作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・情緒・行動ともに安定した自立度の高い利用者が多い。 ・介護計画の見直し以前に、変化が見られる利用者に対しては、状況に即して随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・通院は家族対応が原則だが、医院が近いこともあり、ほとんど、施設の職員が対応している。 ・事業所は地域の中で、介護に関する相談ごとの中心的な存在になっている。住民からの要望に応じて丁寧に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・隣の斉田医院と医療提携しており、緊急時は勿論日常的にも対応してもらっており、利用者、家族の信頼をえている。 ・従来のかかりつけ医、病院とは、継続して治療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・建物の構造上、歩行可能な状態までが入居の条件ため、終末期までの対応は基本的に難しい。 ・職員の協力で、家族、医師と相談しながらぎりぎりまで介護・看護に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は利用者に対して人生の先輩として接し、年長者を大切にす気持ちや常に持つように心がけ、言葉使いに気をつけている。 ・個人情報関係の書類は、鍵が掛かる事務室内に保管し、いつでも必要な時に見ることができるようになってる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の希望や思いを尊重し、自由にのびのびと暮らせるように支援している。個人別記録に”私の気持ち”欄を設け、日頃の話から職員が利用者の気持ちを代弁して書き込み、常に利用者が何を望みどういう気持ちでいるのかを把握して、気持ちに沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、希望のメニューや好みの味付けにできるだけ沿うようにしている。 ・食材の買い付け、後片付けを利用者の個々の力を活かして、できる範囲でしてもらっている。 ・職員と利用者は一緒に食事を楽しんでいる。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は1階の利用者が火・金曜日、3階の利用者は月・木曜日の1時半から4時の間に週2回入っている。 ・入浴日・時間に制約があるが利用者の理解を得ている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の一人ひとりの経験と能力に合った役割を、日々の生活に生かすように支援している。 ・私物の整理やタオルなどの洗濯物のたたみなどを行っている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と個別に話し合い、行きたいときに散歩に出かけるようにしているが、限られた職員で時間的にも制約がある。 ・家族の協力を得て外出することも多い。施設が交通量の多い商店街の中にあるため、現状は利用者・家族の要求を満たすまでには至っていない。 	○	・家族やボランティアの協力を得て、外出の機会を定期的に設けることが期待されます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・非常口のみ鍵をかけている。他の出入り口はすべて鍵をかけずに、職員が予め利用者の特性を把握し、注意して行動を見守ることで、自由な暮らしを支援している。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導で、利用者は災害時各フロアーのエレベーター前まで避難すれば良いことで了解が得られている。 ・避難訓練は未実施で早急に取り組むべく検討中である。 ・隣接する斉田医院の協力、理事長宅への避難等地域との協力体制はできている。 	○	・消防署や地域の協力を得て、定期的に消防訓練を行うように希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食量、水分量を個人記録簿に記載し、職員が一人ひとりの身体状況を把握して継続的に支援している。 ・食事制限が必要な利用者が多いため、メニューの作成にも注意を払っている。 ・菊名病院の栄養士に、この2月栄養バランスについてのアドバイスを頂いた。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内には異臭もなく掃除も行き届いていた。 ・対面式キッチンで、職員はテレビを見たりお手伝いをしている利用者と話をしながら、調理や洗い物をしており、生活感のある暖かい家庭的な雰囲気の間となっている。 ・居間は華美な装飾はなく、写真やカレンダー、保育園児からのプレゼントの作品が飾っており、家庭のような雰囲気となっていた。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間には、利用者に合わせて施設が用意したベッドの他、利用者の馴染みのベッドや家具、家族の写真、仏壇などが持ち込み、居心地の良い生活環境になっている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆり苑
(ユニット名)	山野草
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3
記入者名 (管理者)	加納 安芸子 (長島忠夫)
記入日	平成 21年 2月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>サービスの向上には外部評価は欠かせません。これから実施を見る運営推進会議で、どのようは話や意見が出されるかは不明ですが、出された話や意見に対してグループホームは真摯に受け止め、速やかに実施できるような運営を進めたいと思います。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>運営が内向きになっている点を、今年度はこれから行われる外部評価や運営推進会議の結果を踏まえて、外部も包含した運営に切り替えていくことが重要と考えています。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>仕組みがあっても、利用者の意見が反映されて良い結果を生んでいるかの検証が行われていません。この点を今年度は検証して利用者がさらに生活しやすいホームにしていきたいと感じています・。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>魅力ある職員育成に努めています。職員教育、スキルアップのためにメンター制度を取り入れたいと運営者は考えているが、先頭に立てる人材が育っていない点が問題である。</p>	<p>○</p> <p>職員の人員数がぎりぎりというところに、この取り組みがうまくいかない原因があります。経営上、人件費のウエイトがさらに大きくなることは好ましい経営状態ではないと考えます。しかし人が育たない、育てられないのであれば、外部からそれなりの人を登用していくしかないのかも知れません。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者はこの地に生まれ育った者であり、父親の時代から開業医として約50年にこの地域で活動をしてきました。この地域の人たちとは気っても切れない関係にあり、また地域の人々も事業所で行われている活動に関心が大いにあります。そのような関係が自然と地域のネットワークを作っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昨年同様に、職員一人ひとりが抱えるストレスに運営者、管理者は目を向け軽減できるように交流を多く持つように努めております。しかしなかなか軽減にいたっているかの検証にまでは及んでいないように考えます。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>働く職員の勤務内容を運営者、管理者は的確に掴み取っているのか、職員として少々感じる場所があります。各自の向上心にいろいろな角度から目を配って欲しい面があります。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居を希望する入居者との話し合いに多くの時間を費やして入居を決定する支援は、管理者が中心になって十分にできていると感じます。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記設問と同様に、管理者は家族の抱える問題や悩み事に真摯に受け止めようとしていることが家族からの言葉や管理者からの連絡簿を通しての言葉に見て取れます。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今何に一番困っているのかを聞き出すことの重要性は職員もよく理解していると思います。管理者はすべて入居につながるような解決方法はとらず、その時一番いいと判断されるサービスを家族と話し合っているようです。ですからなかなか定員を満たせない状況があるようです。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに時間をかけて、入居者ができる限りスムーズに負担が少なく入居できるような配慮を管理者を先頭に職員も務めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症がある入居者といえども、普通の一人の人間であるということを職員が思っていないといけない問題です。どのような状況になろうとも一人として尊重されるべき存在としてこの先も関わりを持っていきたいと思っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族との関係づくりは非常に重要と考えます。特に入居後に預けっぱなしとならないためにも、職員は入居者の日々の暮らしぶりを家族に伝えながら一緒に入居者を支援していくといった姿勢を忘れずに持って仕事に就いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の関係はなかなか私たちが立ち入ることが難しいことがあります。特にお互いの関係があまりよくないと思われる入居者と家族の関係は時間を十分にかけて相互理解ができるように努めています。認知症という病気を家族に理解していただくだけでは、真のお互いの理解を		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境の変化はどのような人にも精神的負担を生む。まして認知症の高齢者にとってはその負担は想像は絶するものと考ええる。その精神的負担が新たな問題を発生させることも十分に予見できます。そのようにならないためにも環境の変化については十分な注意を払っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間でのスムーズな人間関係づくりは、ホーム全体の雰囲気にも影響を及ぼす。無理した過剰な人間関係づくりには十分注意して自然な形でのお互いが尊重できるような人間関係づくりに職員は努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>ホームとしては退居後も支援を惜しむつもりは毛頭ありません。がホームを離れることでその関係が疎遠になるケースも多々あることも事実です。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で本人との話し合いを重要視しています。本人がホームでどのような暮らしを望むのかを本人の言葉を元に実現していくことに職員は努めています。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前、入居後も今までの生活を大切にするように、職員は入居者との話し合い、情報取りを意識的に行って生活に生かせるように努力しています。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>入居者の状況把握は、朝の申し送りから始まって随時勤務する複数の職員がその把握に努めています。入居者の一日の過ごし方はおおよそ決まっているように見えますが、実は細かいところをいろいろな角度からいろいろな職員が目で見っていくとその違いが観察されます。それを職員が共有することが個別的なケアの発端と考えています。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人との話し合いを重要視しています。本人がホームで何をしたいのか、どうありたいのかを日々変わる発言の中からまとめ、検証を重ねながら入居者にとってよりよいプラン作成に努めています。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>できる限り見直しを定期的に行うようにしています。多くの職員の参加を求めて評価、モニタリングを行い、新たプランにつなげていますが、参加する職員が少なくなってきたのが現状です。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>38</p> <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>現状の記録は職員が行ったことのみ記載です。その場その場必要と思われたケアを実施していることは事実ですが、記録として残っていないところに、ホームとしての職員の情報の共有化が完全に図れない。そこがホームの弱点にもなっているようです。</p>	<p>○</p>	<p>職員のいろいろな面でのスキルアップが必要です。職員間での情報の共有化がいまひとつしっくり行かないのは、個々の職員の介護に対する考え方や価値観、生き方が大いに関係しているように思われます。今ここで生きている入居者への思いが抜けている面もあるのかと思います。何とか改善したいと職員は考えています。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39</p> <p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームのよさは、小回りの効く多機能性を最大限に発揮することと心得ています。しかしなかなか思いはあってもその多機能性を発揮するだけのものとなっていないのが現実です。</p>		
<p>40</p> <p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>本人の意向やその必要性により、いろいろな機関の支援を受けるべきと大いに感じますが、なかなか実現できていません。</p>		
<p>41</p> <p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>昨年と同様の回答になってしまいますが、再考の余地が大いにあることは否めない。</p>		
<p>42</p> <p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>この設問には程遠いが、今年度やっとのことで地域包括センターとのつながりを推進会議で持つことができそうです。</p>		
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医については本人、家族の希望を元に、ホームとの連携は持っています。また必要な支援についても行っています。</p>		

ゆり苑(山野草)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>医療法人として専門医とのつながりは持っています。また必要に応じて相談や治療も実施できています。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>医療連携の下に、母体法人の看護婦の定期的訪問を受けながら入居者は健康管理、医療支援を受けています。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>長期の入院によるダメージを回避するためにも、入院先との話し合いを密に持ち、早期退院に向けた取り組みを入院時には必ず行っています。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人、家族、主治医、管理者、ホーム長を中心に重度化対応に臨んでいます。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度、終末期については入居当初に本人、家族からその意向を聴取しおおよその指針を出しております。そして重度、終末期を迎える場面で再度その指針を確認するような体制を作っています。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>環境の変化が及ぼす影響については、普段から認知症という病気を理解していただきながら伝えていきます。住み替え等によるリロケーションダメージについては最小限となるように支援しています。必要な情報提供は惜しまず行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	未だにこの点をクリアできないことに、いささか恥ずかしさを覚えます。職員の中にはどうしても配慮の足りない人間がいることは事実です。注意して注意しても改善できない点は反省するとともに、認知症、尊厳、人間といった基本的なことに継続的に挑み続ける必要性を反省を含めて職員一同感じます。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いやしたいこと、希望を言葉として容易に表出していくことができる環境作りに重点を置いています。言葉にしたことが必ずしも実現できるとは限りませんが、できないときには本人が納得できるような説明を実施しています。それでも納得できないことが多々あります。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてその日の組み立てを実施したのは山々ですが、なかなかできないことがあり、実現できていないのが現実です。	○ 職員の人数に限りがありますが、職員は柔軟な勤務を心掛け、入居者がいることを忘れずに勤務についていただけるようにしたいものです。他職員への迷惑を第一に考え、業務優先になりがちな今の勤務体制をもう一度職員全員で見直していきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が考える身だしなみ等、おしゃれについては配慮している。理容、美容についても、訪問美容をホームに入れてはいるが、入居者が望むように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事作りの能力が落ちてきて、作業の種類が減ってきてはいるが、工夫しながらできることをしていただいています。役割のある生活が重要であることは職員は理解しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好については、一人ひとり個別に対応できる体制を作っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それを望む入居者へは支援はできています。望まない人もいて差があります。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	実施できている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実施できている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口すべてに鍵を掛けないことを基本としておりましたが、目の届かないところから入居者が出て行ってしまうケースがあつて以来、非常口のみ鍵を掛けております。しかし非常口も簡単に開錠できます。この項目実施できていると考えます。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	実施できている。昼夜を通して入居者全員の行動把握に努め、入居者が困らないような最低限の生活を保障することに職員は勤めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況、状態に合わせ、事故や危険が予想されるときには、物品の保管管理を通常とは別扱いするような柔軟な対応に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	実施できている。入居者の個別性に目を向けた対応に努め、事故防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>災害時の取り組みが徹底していない面があり、職員の意識も高いとはいえない中、ひとつのきっかけとなる消防法の改定が4月にあります。この機を逃さず、職員の防災への意識を高めようと考えています。スプリンクラーの設置もひとつのきっかけとします。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施できています。個別に記録をとりながら、職員間、勤務の引継ぎを通して申し送っていき、継続的管理をして支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しての取り決めはできている。職員の中には対応に自信がない人もいるため、申し送り、連絡簿を通して繰り返し確認するように努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	実施できている。一人ひとりの職員は衛生管理に関して十分注意を払っている。また感染症予防の上記項目同様に繰り返し申し送り、連絡簿を通して繰り返し注意を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に工夫はしていませんが、玄関を除いて興味ある近隣の人たちの来苑はあります。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光に対しての入居者の反応は敏感な人、そうでない人と入るようです。私たち介護者は、認知症を抱える入居者が居心地のよい環境で過ごすことができるよう常に考える感性を持った人でないといけません。職員間に差がありもう少し配慮を加えないといけないところがあると考えています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いホームの中で独りになれるところは自分の部屋しかありません。気のあった人同士が思い思いに過ごせるのも、もしかしたら自分たちの居室だけかもしれません。居場所の工夫に制約がありますが、職員の配慮である程度の支援はできているものと考えます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時より、馴染みものを持ち込み、入居者や入居者をよく知る家族で居室を居心地よく作っていただくようにしています。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者の状況に応じて、温度管理、湿度管理、換気等を実施する。特に臭い、気になる施設特有の臭いについては、十分気を配って対処しています。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの入居者が安全、安楽に過ごせる環境に配慮して生活していただいています。入居者によっては事故が懸念される時には付き添いなどの対応に努めています。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ゆっくりとした言葉掛け、ゆったりとした行動で、急かすことなく、本人が理解できているかを見極め、できることを自分でしていただくようにしている。しかし完全に実施できているかはまだまだ疑問な所が多い。</p>	
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>商店街で交通量の多い立地であり、建物の周りを散策していただくようなことはありません。しかし屋上はスペースもあり、高い建物もないため360度外の風景を眺めることができます。特に冬の富士山を眺めての入居者の表情や言葉は特別のものがあります。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者が自分で考えて、自分でそれを実行するというのを大切に考えています。職員の中には入居者が自分で考えた部分までは理解は及んでも、入居者が実行する段になると、職員が代わって行ってしまおうといったケースが多々見られてきました。時間をかけて見守るという姿勢を職員には求めています。入居者ができること、できないことを職員目で判断して、入居者の気持ちを考えずに、入居者ができないことに職員がいと簡単に手を貸してしまう、援助してしまう、これは入居者が考えたことに対して入居者がたとえ間違った行動をとったとしても、入居者の意思決定に基づいた行動を待たずして援助した勝手な職員の思い込み援助にしかならないと考えています。この点に職員は十分考えを及ぼして日々の援助を行っていくようにしています。このように職員がしてしまう一方的な援助が、できることもできなくしてしまう一因であることを常々職員に伝え、余裕を持つこと、待つこと、見守ることの大切なケアを実践するように取り組んでいます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆり苑
(ユニット名)	駒草
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3
記入者名 (管理者)	長島 忠夫
記入日	平成 21年 2月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>運営推進会議への直接参加をいろいろな職員が経験して、グループホームが入居者と家族と職員のものではないことを、外部の人間の関わりによって知ってもらい機会とした。そしてさらに入居者にとって住みやすい施設にしていきたいと考えます。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>ご家族からの意見、不満、苦情について、職員は耳を傾けて運営に反映させるように努めはいます。しかしそれらがグループホーム内部だけで、いかにも解決できているように職員は思っている節があります。ご家族からの意見、不満、苦情には職員、家族一体となって考えていかないと考えています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> <p>職員数がぎりぎりでの運営であるため、外部への研修はまったく行えていない。もう少し人数に余裕を作って研修などに出して頂きたい。人材育成は勤務年数の長い職員がOJTという形で育成している。</p>	○	法人内外の研修を受ける機会は非常に少ないように思います。職員の人数が少なく、研修を受ける余力がないといったほうが正確です。計画的に研修が受けられるように法人は取り組んでいただきたいと思います。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> <p>いくつかの近隣のグループホームとの交流を通してサービスの向上に努めている。職員間の相互訪問は未だに実施できていない。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> <p>ストレスの軽減に対しては、個別に管理者が話を聞きながら行っているようです。工夫は何人かが集まって食事をするくらいです。これでストレスが軽減できているとは思えません。</p>	○	職員の人数がぎりぎり、勤務も職員にとってはきつい職員もいます。またストレスをうまくコントロールできる職員もいれば、できない職員もいます。個別に管理者はストレスを溜めないように心の管理をして欲しいと感じることがあります。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>一人ひとりの職員の働く状況を運営者は詳細に把握はできてはいません。しかし働く環境にはいろいろと配慮していただいていることが私たちの要望をすぐに取り入れてくれるところから見て取れます。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>入居者との話し合いは管理者がすべて行っています。入居の希望から実際の入居まで、多くの話し合いが行われて入居に至っていることは入居者や家族からよく聞きます。入居者本人が安心して入居できるような取り組みは行えていると思います。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>すべての家族とは行かないが、管理者は定期的に面談を行っている。そして必要とあれば相談内容や家族の要望を管理者が職員に下ろすような取り組みをしている。</p>		

ゆり苑(駒草)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	<p>入居者は意思表示がはっきりとしており、人、場所、もの、すべてにおいて自分との関わり、関係を理解しています。その中で本人が希望する、意思に基づく関わりを求めてきたときには、実現させて差し上げたいと思います。</p>
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	○	<p>一人ひとりの過ごしてきた時間を大切にするには、関わる職員がその時間を共有したいと思うところから始まるのではないのでしょうか。そのような意識を職員が理解できるような環境を作りたいです。</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

ゆり苑(駒草)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院の専門医との関係があり、必要時には専門的な治療も可能です。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医院への定期的な受診(1か月に1回)、協力医院の看護師の訪問、法人本部からの看護師の派遣等、入居者との関係を重視した医療連携は医療法人としての強みです。支援はできています。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院したときにホームがしていることは、ホーム職員の入院先への訪問面会です。そして早期退院に向けて病院関係者との話し合いを頻回に実施しています。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期については、入居者、家族と入居当初に話し合いをして、重度化する前に、終末期を向かえる前に再度話し合い、確認をして本人、関わる回りの人間が先の方針を共有するようにしている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ケースごとに、事業所としてできること、できないことを明確にして、過去のケースでの経験を生かして少しでもできることを増やすように努めている。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え、環境の変化に伴うリロケーションダメージを最小限にするように、最大限の情報交換に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自立度の高い駒草の入居者への職員の対応は、必要以上に気を配らないとならないと各職員は十分に心得ており、不当な扱いはしていません。	○ 個別性に十分注意を払っても、入居生活に埋没してしまうような入居者も実はおられます。そうならないようにするためには、年長者を大切するといった、昔の日本人が普通に持っていた感覚を、今また、何も考えることなく呼び起こして介護の世界に定着させたいと思います。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望は容易に表現できるような環境づくりに常時努めている。そして入居者が自分の決めたことを行動に移しやすいような暮らしを作る支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人たちの希望に沿った支援に努めている。駒草の入居者は自立度が高く、その日をどのように過ごしたいかはおおよそ入居者自身で決めています。職員は見守りながら危険の回避に努めている。	○ 入居者の希望、一人ひとりのペースを考えると、職員が何人いても足りないくらい、費用もどれだけ要するのか。現実としてなかなか意に沿ったものを実現することは難しいと思います。しかし実現可能なものは是非進めて現実化したいと考えます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	実施できている。個々の入居者が自分の好む服装をし、お化粧もする人は自由に行っている。理容、美容についても自分が好むスタイルを自分の言葉で伝えることができる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のごく一部の人が、限られた料理づくりに参加することはあります。食事は個々の入居者の希望のメニューや好みの味付けを職員は把握して実現に努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	駒草の入居者は糖尿病等で食事に制限、嗜好品にも制限があるが、状態が悪化しない程度に元に限定的な支援を実施しています。	

ゆり苑(駒草)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

ゆり苑(駒草)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施できています。入居者全員に行えていない面もありますが、必要な人には適切に実施できています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いろいろな人の訪問を受けております。居室で一緒に過ごしていただくことがほとんどです。気兼ねなく過ごせるように訪問者にはいろいろご意見をいただいております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	完全に実施できています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	問題なく実施できています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	実施できています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	実施できています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に合わせた対応に常時努め、事故なく生活しております。		

ゆり苑(駒草)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>全ての職員が救急手当、初期対応ができるとはいえません。</p>	<p>○</p> <p>救急救命に関しても是非やりたい項目です。時間は作るものです。協力的な職員を作って時間を提供していただけるようにしたいと思います。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>重要項目である割には取り組みは遅れています。地域との運営推進会議の設置で取り組むきっかけができたので是非早急に取り組むべきだと感じています。</p>	<p>○</p> <p>基本的なことの再確認から始めたいと考えます。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>一人ひとりの家族と起こり得るリスクに関しての話し合いは常々持っています。家族も理解していただけていると思います。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>体調の変化や異変については、職員は常々気を配っています。変だと思ったときには、即主治医に連絡、診察をしていただくこととなっています。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬支援についての意識付けが薄いと思っています。病気と薬の関係や用法、用量については関心が薄く、決められた時間に決まった量を内服していただくといった業務として捉えている職員が多いように思います。</p>	<p>○</p> <p>駒草は糖尿病の方が2名おります。内服薬、インスリン注射で対応しています。血糖の状態によっては重篤な状態を引き起こしてしまいます。もう一度この点を職員は再確認するように努めます。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>実施できています。まず食事内容について便秘を起こさないように注意したメニューを用意しております。身体を動かす機会が少々少ない人もいますが、便秘がちになりやすい人には散歩に取り組んでいます。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>実施できています。毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔に注意を払っています。口腔ケアが適切にできない人には、清潔を保つために口腔ケア専用のうがい薬も用意しています。</p>	

ゆり苑(駒草)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に制限がある入居者の集団です。食事作りを担当する職員は、担当した時だけのメニューを考えるのではなく、数日前からのメニューを確認してバランスよく食事作りをしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しての取り決めはあります。管理者を中心に感染症発生時には職員全員が同じ行動が取れるかが課題。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	実施できています。包丁、まな板の消毒。冷蔵庫の清掃。食材に大きく記した購入日等。使い切りを原則とした毎日の食材購入と消費に努めています。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	商店街の一角にあり、高齢者の共同生活施設とはなかなか分かりにくいと思います。特に工夫をしていることはありません。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できています。管理者が特に注を払っている点です。職員もその点にはいろいろな配慮をしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人の定員に対して3人の入居者で暮らしています。この先定員を満たしてしまうと共有空間が狭くなりますが、今の状態は自分の思いに沿ったスペース確保はできていると感じます。		

ゆり苑(駒草)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できています。入居時に今まで使っていたものを制限することをほとんどしないで持ち込んでいただいています。仏壇のろうそく等については制限を設けています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	実施できています。エアコン、換気扇を随時使用しながら換気に努めています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLのレベルの高い入居者の集団です。現在の建物はこの入居者が生活するには特に問題があるとは考えていません。この先レベルの低下が見られたときに工夫が必要になってくるように考えています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	実施できています。時間をかけていろいろなことをしていただくように職員は余裕を持って勤務に就く努力をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや屋上での花の栽培。去年はアサガオをこの空間を利用して一生懸命育てていました。	○	今年もベランダ、屋上のスペースを生かして、植物を栽培したいと考えます。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自立度の高い駒草の入居者へは、「自分でできることは、自分でしましょう」「できないことがあっても恥ずかしいことはありません。必要なことは援助を申し出てください」的にお話申し上げながら生活していただいております。とは言いつつも、すべて入居者に任せて生活を組み立てているわけではありません。職員は入居者が生活する様子を職員間で共有しながら、援助が必要と思われる事柄が出現したときには、どのような援助を入居者が求めているのかを入居者と個別に話し合いながらケアプランを策定しています。すべてなんでも入居者と職員で話し合いながら生活を組み立てていくことを主眼にしています。